



国臨協関信

H.P: <http://www.alpha-net.ne.jp/users2/kansinko/>
パスワード: kansin

平成23年 1 月

事 務 局 〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1
(独)国立国際医療研究センター病院中央検査部内
発 行 者 田島紹吉
編集委員 渡司博幸・沼田正男・菅原恵子
印 刷 所 東洋印刷株式会社
☎ 03-3352-7443



新 年 の 御 挨拶

国立病院臨床検査技師協会関東信越支部 支部長 田 島 紹 吉



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、清々しく新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年は、4月に国立高度専門医療センターが独法化され、大きな節目の年となりました。関信支部でも会期が変更され定期総会と支部学会が分離されましたが、交流会および研修会、支部学会などでは多くの会員の皆様方にご参集していただきました。支部活動にご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

今後の支部学術活動では、超音波研修会や症例検討

会を予定しておりますので、多くの方々のご参加をお願い申し上げます。また、1月には地区代表者会議を開催いたしますので、地区代表者におかれましてはご意見のとりまとめをお願いいたします。

研修会では知識の吸収や技術の向上を念頭におき、会員の皆様が会場に足を運んで頂けるような企画を考えております。会員の皆様が参加することで活性化が図れ、新しい企画も生まれますので、益々のご協力を宜しくお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様が施設内や他学会などで益々活躍されることを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

関東信越ブロック事務所統括部医療課 臨床検査専門職 永 井 正 樹



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様方には、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年中は皆様から多大なるご支援とご協力を賜り、心から感謝を申し上げますとともに、日頃から単身赴任や遠距離通勤を余儀なくされている皆様には、心より労いの意を表したいと思います。

昨年は行政刷新会議による事業仕分けがあり、我々の経営母体でもある国立病院機構も仕分け対象になりました。評価結果については皆さんも既にご存じのことと思いますが、平成16年の独立行政法人化以来、6期連続の経常収支プラス、5期連続の黒字経営という努力に対する評価としては決して満足できるものではありませんでした。

また、昨年の4月から国立高度専門医療センターが非特定独立行政法人になり、国立高度専門医療研究セン

ターとして新たにスタートをしましたが、それに伴い人事交流などにおいて様々な変化が認められ、対応に苦慮した年でもありました。

さて、皆さんは今年一年をどのような年にしたいですか？気になる国立病院機構の非公務員化も着々と準備が進められており、法案提出の時期や国会運営の状況にもよりますが、早ければ来年度中との声も聞こえています。そのような状況下において、我々もさらなる変化に柔軟に対応できるよう、各自が引き続き自己研鑽に励むとともに、みんなで一致団結してさらに強固な組織の構築に努めなければなりません。

現在、臨床検査部門も様々な面で正念場を迎えていると思いますが、各人が自分の立ち位置や役割をしっかりと認識し、日々継続して懸命に働き続けることが何より大切だと思います。

本年も引き続き皆様のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の健康とご多幸をご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



茨城地区会会長 ……………中 島 哲

新年あけましておめでとうございます。

茨城地区会を代表いたしまして関信支部会員の皆様には新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、昨年を振り返ってみて順風満帆なよい年であった人から行き詰まり満足できなかった人、様々だったと思います。新年を迎え、皆様方それぞれに今年の抱負や決意を新たにしているのではないのでしょうか。私たち臨床検査の仕事は奥が深く、知れば知るほど面白みのある仕事と常々思っています。一日一善ではないですが、一日一つずつでも知り得るものがあれば、仕事も面白くなるのではと感じています。

茨城地区会では昨年3施設36名の会員の内、9名が入替わり、5名の新人技師を迎えました。新人は社会人としても医療人としても1年生。不安と期待が入り混じった1年だったと思いますが、皆、目を輝かせて頑張ってくれました。5月には総会、11月には地区会『いばこみ』を発行し、会員の方々に新企画の川柳を考えてもらい投稿致しました。12月にはボーリング大会と懇親会を行い、川柳の優秀賞を会員全員の投票で決め、懇親会に披露致しました。懇親会では親睦が深まり、地区会がひとつになったと感じました。会員皆様のご協力とパワーに感謝する次第です。

昨年は、猛暑が続いたと思ったら、秋らしい秋がなく一足飛びに冬に。急激な気候の変化と政権交代したものの先行きのはっきりしない情勢に戸惑いを感じました。私たちの情勢も然りで、昨年の4月からナショナルセンターは研究センターと改名され、単独の法人化となり、非公務員となりました。人事交流も不透明ですが、しかし、やる事は何も変わらないと思っています。流されることなく病院や地域に必要とされる検査科を構築し、会員の皆様が自己の力をつけることにあと思っています。その中で、舵取りをする技師長の責務は大きく、職場が化けるか衰退するかは舵取りにかかっているといっても過言ではないと感じています。私も舵取りを間違え難破船にならぬ様、職場を活性化し、皆の後押しをしていければと新年の決意をする次第です。

本年は春夏秋冬の季節感が感じられるようなメリハリのある世の中になってほしいと節に願うと共に関信支部会員の皆様のご多幸とご活躍を祈念し、念頭の挨拶と致します。

栃木地区会会長 ……………松 林 守

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には健やかに新たな年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年、栃木地区会では2月に総会・学術セミナーを開催いたしました。本来は3月ですが、他地区との総会の重複を避けること、またこの時期の人事交流の影響を考慮し、ひと月早く総会を開催する事としました。しかし2月の開催は、気象による交通機関への影響やインフルエンザ流行時期と重なることが懸念されます。

平成22年2月20日行われました地区代表者会議にて栃木

地区会総会日程について意見を伺い、今後総会開催日は12月の第1週とする事としました。平成22年度は2月、12月の2回の総会となりましたが、会員の理解と協力にて無事乗り切る事が出来ました。総会・会期日程の見直しは、栃木地区だけではなく他地区でも行われ、総会日程を見直した事で、地区会活動を始め、会員にとってもメリットがあるのではないかと考えます。

さて、昨年度の栃木地区会の活動は、第1回研修を6月宇都宮病院にて「β-D-グルカン・エンドトキシン検査の臨床的有用性について」第2回研修会は10月栃木病院にて「改正臓器移植法について」を開催致しました。また好例のレクリエーションは一昨年に続いて「ろまんちっく村」に出かけました。今までは物作りが主体でしたが、今年は猛暑続きであったためか、夏バテを吹き飛ばそうと涼しい室内でのバーベキューとなりました。気が利いた理事の配慮だと思っています…？

今年も少数精鋭で、会員相互の親睦とスキルアップ向上を目指し、会活動を進めて参りたいと思います。最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご健康とご活躍を祈念して新年の挨拶といたします。

群馬地区会会長 ……………竹 下 昌 利

新年あけましておめでとうございます。

群馬地区会を代表して皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

群馬県は昨年、高崎総合医療センターの開院、4施設での大幅な人事異動など大変に忙しい年でした。そんな中、前石川会長の基、草津白根山で"こまぐさ鑑賞会"、草津温泉での懇親会と体験入浴と会員相互の親交を図るなど地区会の結束も大切にしてきました。

近年検査科は、検査相談室の設置(案)、24時間体制の導入及び2交代勤務の実施など職場環境が大きく変わってきました。当然私たち検査技師に求められる要望も拡大し、負荷も増大しています。"とにかく乗り切ろう"この言葉しか出てきません。さらに、事業仕訳による独立行政法人に対する厳しい査定で機器整備が大幅に遅れそうです。前政権時の地域医療再生計画が遠い過去の遺産に感じられます。暗い話ばかりで申し訳ありません。今年は職場長と共に職場環境の改善に努力し、検査科を活性化しましょう。

さて、ここからは群馬県の紹介をさせていただきます。群馬県には高崎総合医療センター、沼田病院、西群馬病院、楽泉園の4つの病院があります。各病院にお越しの際は、高崎、沼田は新幹線で、西群馬、楽泉園は高速バスでお越しください。私たちは、City(街)とSpring(温泉)と呼び分けています。高崎、沼田で都会を感じ、伊香保、草津で癒される。そんな群馬県です。観光だけでなく、仕事でも是非お越しください。最後に関信支部役員並びに会員の皆様のご発展とご多幸をお祈りいたします。



千葉地区会副会長 ……海 原 桂 一

新年明けましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様には新たな年を迎え謹んでお慶びを申し上げます。

昨年いろいろな事がありましたが、最も関心があった出来事は、4月に国立高度専門医療センターが国立高度専門医療研究センターとして独立行政法人化になった事です。

これは単なる医療機関ではなく、国内の医療をリードし、国際的な医療研究のネットワークに参画していく機関であるという性質に鑑み、独立行政法人化にあたり、各センターの「研究」を追加したものであります。

臨床研究・高度医療への柔軟・迅速な対応が可能となり、国の医療政策と一体となってわが国の医療をけん引、世界の保険医療の向上に貢献することが期待されています。(国民衛生の動向2010/2011より)

従って今後、国立高度専門医療研究センターは、大きく変革し、ますます重要な役割を果たしていくものと思われます。昨年、千葉県は国民体育大会・ゆめ半島千葉大会が開催されそして、千葉ロッテマリーンズが日本一に輝きいい年になりました。

今年の目標は、さらに各個人のスキルアップに心がけ、病院に必要とされる検査技師を目指すよう、千葉地区会を盛り上げていきたいと思ひます。

また、千葉地区会は今年で30周年を迎えます。今まで諸先輩たちが築き上げた、多大な功績を残して戴き、感謝申し上げます。

今後とも会員一同が引き継ぎ、よりいっそう頑張っていきたいと思ひます。

最後になりますが、ますます関信支部が発展しますよう、役員並びに会員の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りいたしまして、新年の挨拶とします。

神奈川地区会会長 ……近 藤 正

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな年明けと共に希望に満ちた新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年、神奈川地区会では3月6日(土)NHQ相模原病院内の研究センターにおいて、平成21年度第28回総会を行いました。学術講演として「悪性リンパ腫の病理診断」と題し相模原病院研究検査科長の齋藤生朗先生にお話していただきました。

4月、人事異動に伴い13名の新たな仲間ができました。

それぞれの紹介は関信支部ホームページ、地区会会報誌第48号(7月発行)に掲載されています。

10月30日(土)新装となった横浜医療センターにて平成22年度第29回地区会総会を行いました。

例年、年明けの2月下旬か3月初旬に行っていましたが、昨年は特例として年内に開催となり、今後も秋期の開催とする事を総会議案に提出し承認されました。当日は、台風の影響下、強い雨の降る天候、しかしながら会員の皆様には多数出席いただきました。

総会終了後、真新しい横浜医療センター検査科内を支部会員の方々と見学。効率の良い機器の配列、人員の配置等考えぬかれた結果と推測されます。

学術講演については、「国立病院・療養所病理検査室に勤務して」と題し同センター検査部長の新野史先生と、「国立医療施設の病理検査室に携わる検査技師として」と題し国立がん研究センター中央病院臨床検査部の佐々木 直志主任技師にお話いただきました。この講演は、関信支部との共同開催によ

るもので、広く支部会員の皆様にも多数参加いただきました。ご尽力くださいました田島支部長はじめ理事の方々に改めてお礼申し上げます。今後も、関信支部と連携を密に計りながら、他施設の多くの方と知識や情報を分かち合い新しい仲間が増えてゆく場となるよう地区会を運営してゆくつもりです。

今年、明るい話題が多くありますことを願うと共に関信支部会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念して新年の挨拶とさせていただきます。

新潟地区会会長 ……菅 孝

新潟地区会を代表いたしまして、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。関信支部会員の皆様におかれましてはお健やかに新春をお迎えのことお慶び申し上げます。

新年を迎え、私も例年どおり、新年の目標とやらを立ててみようと考えました。その前に昨年の目標は…?。会員の皆様、昨年の目標は達成出来ましたか?

あるブログで、「8割近くの方は新年の目標達成出来ず」と言う記事を目にしました。英国のハートフォードシャー大学の心理学者ワイズマン教授がある調査を行い8割近くが目標達成の途中で挫折したり諦めたりという経験があったという結果を出し、失敗例の分析で成功の秘訣を研究したそうです。教授の成功の秘訣10のアドバイスは次のとおりです。

- ・目標は1つだけにする。
- ・数日じっくり考える。
- ・以前立てた目標は避ける。
- ・ごく普通の目標にする。
- ・細かくポイントを設定し、1つずつクリアしていく。
- ・自分にプレッシャーをかけ、サポートを得るために友人や家族に目標を話す。
- ・定期的に「達成するとどう好ましくなるのか」を書き出し、利点を考えるようにする。
- ・モチベーションと進歩の感覚を守るため、1つのステップをクリアしたら自分にご褒美を与える。
- ・達成までの計画やプロセスを記録し、グラフや絵を使って分かりやすく示す。
- ・心が折れそうなときは諦めるのではなく、一時的に前の習慣に戻ったと解釈する。

私もアドバイスの中の一つを実践しております。実は先輩技師長さんからの教えでもあります。最近では自己評価があまくなり、ご褒美ばかりを要求するようになりましたが。国立病院機構も業績評価制度を取り入れ、個人の目標、検査科(部)の目標、施設の目標を明確にし、成果を上げるべく取り組んでおります。

最後になりますが、会員の皆様にとって今年一年が充実した達成感のある一年でありますようお願い申し上げます。



長野地区会会長 ……………高 藤 博

新年あけましておめでとうございます。

関信支部会員の皆様におかれましては、心新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

長野地区会も関信支部の会期変更に伴い、6月に総会を開催しそこから1年会期と変更しました。従って22年度は6月からスタートです、地形的にも山あり、谷ありの県で、また離れた施設もあり移動など大変な面もありますが、連帯感を持ち長野地区会を盛り上げています。

昨年8月のチリ鉱山落盤事故は皆様の記憶もまだ新しい所であると思います。発生から救出までの映像が全世界に配信され多くの感動を与えました。映画と違って実際に起こっていることのライブ映像「奇跡の救出劇」ですので感動は比べようがありません。この「奇跡の救出劇」は我々に感動を与えるとともに、学ぶこともあったと思います。それは現場監督のウルスアさんのリーダーシップです。まず17日間もわずかな食料で33人もが発見されるまで生き延び、その後70日目に無事全員生還できたこと、それはウルスアさんが「真のリーダー」であったからではないでしょうか。組織が危機的状態になればなるほど「真のリーダー」が必要であると思います。では「真のリーダー」とは、まず組織を守ること、部下、仲間を守ること、そして同じ方向に導き、最後に決断して実行することではないでしょうか。彼が救出後大統領に対し「担当のシフト業務を終えましたので、貴殿に引継ぎます。このような事態が二度と起きないことを願っています。」と現場監督としての注文も忘れなかった。

経済優先政策により臨床検査関係も厳しい状況の中、「絶対に希望を失うな」と32人を励まし続けたウルスアさんの言葉を心に、本年も良い年でありますように。

山梨地区会会長 ……………吉 田 和 浩

新年明けましておめでとうございます。

国臨協関信支部の皆様にはよき新春をお迎えのことと、お喜びを申し上げます。

昨年の甲府市は神奈川県厚木市で開催されたB1グランプリin厚木で見事ゴールデングランプリを受賞した『甲府鳥もつ煮』で大いに盛り上がりました。きっかけとなったのは「甲府をもっと元気にしたい」という思いをもつ甲府市職員の有志で結成されたまちおこし団体「みなさまの縁をとりもつ隊」によるものでした。今回の受賞は初出場でのグランプリ獲得というまさに快挙としか言えない結果となり、それによりもたらされた経済効果はなんと28億円にのぼったとか。機会があれば是非甲府鳥もつ煮を食べに甲府にお越し下さい。

一方で昨年は長引く経済不況の中で期待された景気もいっように良くなる気配がみられず、さらに外交の失敗や政治家の失言が報道の中心となりました。明るいニュースといえば主にスポーツで活躍した選手の話くらいだったような気がします。医療に目を転じてみても明るい話題が少なく、厳しい状況が続いています。

しかし、このような時代だからこそ私達臨床検査技師は施設事情に違いはあるものの、各自が自分を見失うことなく、今何を求められ、何をすべきかを判断して行動していかなければなりません。そして、将来を見据えた目標を設定して、その達成に向けてコツコツと努力していくことが必要だと思います。

今年は『一陽来復』となり必ず明るい未来が訪れることを信じ、しっかりと時の流れを捉えて確実に前進していきましょう。何はともあれ今年は安心して生活できる社会となり、関信支部役員並びに会員の皆様に多くの幸運がもたらされることを祈念して新年のご挨拶といたします。

東京埼玉山梨地区技師長会会長 …小 松 和 典

新年あけましておめでとうございます。関信支部会員の皆様にはお健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

東京・埼玉・山梨地区には、NHO施設8施設、独法NC4施設、ハンセン1施設と国立障害者リハビリセンター病院のあわせて14施設がございます。ご承知のように昨年は、NCが独法化されたことで組織全体の基本条件が大きく変化し、あちらこちらでNC施設の実情について取りざたされた一年でした。さらに、会員の皆様が関信学会でお馴染みの国立国際医療研究センターは、昨年8月、高層16階建てのすばらしい新病院をスタートさせたことは記憶に新しいところです。

また、国立病院機構では、行政刷新会議の事業仕分けに対応してどのように対応するべきかを各職種の意見を求めながら検討しているところだと聞いています。このように、年ごとに大きな変化がある中では、何ができて何ができないかをきちんと整理しながら前に進むことが大切ではないでしょうか。今チーム医療に関する議論が活発になされていますが、大事なことは、患者さんにいかに質の高い臨床検査を提供するかを考えて行動することです。この目標さえ見失わなければ、様々な状況変化に遭っても乗り越えられると確信しております。

さて、昨年はたばこの値上げで禁煙を余儀なくされ、ことのほか健康になった方もいるのではありませんか。今年は何なことが起きるでしょうか？どんなことが起きても、私たちのいるこの臨床検査が夢の持てる世界になれるように、前を向いてがんばりましょう！今年が皆様に取りまして、さらに輝かしい一年となりますように祈念しております。





NHO水戸医療センター ……渡 辺 力



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

水戸医療センターは平成16年10月に新病院に移転し、早いもので6年目を迎えました。当院では本年3月に予定されているオーダーリングシステムの更新に向け、昨年の1月より新オーダーリングシステム準備委員会を立ち上げ、毎月委員会を開催してきました。9月にはH I Sおよび検査部門システムメーカーが決定し、現在ワーキンググループにて新システムにおける運用方法について院内で協議を重ねています。普段業務に係わらない他部門との協議をすることにより今まで知らなかったことや気付かなかったことを指摘され、改めて他部門との連携について重要性を感じさせられました。

当検査科においては昨年話題になった事業仕分けではないですが、原点に立ち戻って不採算項目の洗い出し、動線の見直し、マニュアル改訂を再度検討してきました。新たに採血管準備システムおよび新検査機器の導入、フルオーダー化が決まっており各部門において、日夜検討を重ねています。また日常業務においては昨年7月よりドクターヘリが開始され、毎日めまぐるしく業務を行っていますが、水戸ならではの団結力と納豆パワー？で乗り切っています。

私個人の抱負としましては生理検査に配置され丸2年がたちました。検体検査業務を主としていましたので最初は戸惑うことばかりでしたが、スタッフや諸先輩方のアドバイスの下、心電図、肺機能、脳波、聴力、筋電図、超音波などの基本検査に加え、脳死判定など幅広い知識と技術の向上に励んでいます。

なかでも今年は昨年以上に超音波検査の技術向上を目指し、超音波検査士取得に向けて頑張っていきたいと思えます。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

NHO栃木病院 ……小 池 麻友美



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は平成21年4月に栃木病院で新規採用していただきました。細菌、生化学、血液、一般などの各検査を順に担当しましたが、目の前のものをこなすことに精一杯で、あっという間に一年半が過ぎてしまいました。ようやく業務に慣れてきた今年は、担当部門だけでなく広い視野で、検査結果や疾患について理解し探求心を持って臨みたいと思います。また、各種認定試験の受験を視野に入れ業務に取り組みたいと考えています。

私生活においては、親元を離れての単身生活には慣れてきたものの、休日は何となく一日が過ぎる日も多くありました。そこで、今年は「食からの健康!」を意識して料理に取り組み、ジョギングなど運動も欠かさず体力維持に努めていきたいと思っています。

最後になりますが会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

NHO沼田病院 ……上 野 将 臣



新年明けましておめでとうございます。

皆様お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

沼田病院に採用になり、無事に3年目の春を迎えられそうです。採用当初は、検査業務の「け」の字もわからない状態でただ一所懸命業務をこなす事でやっとでした。慣れない土地で雪の多さに戸惑いながらも、一冬越し採用2年目になりました。秋から検体検査から生理検査に移り、まだまだ分からないこともあります。ようやく自分に余裕が出てきました。

昨年沼田病院では新しい生化学分析器やオーダーリングシステムを導入し、臨床からの検査のニーズも高まってきました。3年目を迎える私は、そんな臨床のニーズに少しでも応えられるよう様々な資格修得に挑戦し、ステップアップ出来るよう勉強していきたいです。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



(独)国立国際医療研究センター国府台病院・富永悠里



新年明けましておめでとうございます。

国臨協関信支部会員の皆様には、健やかに新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

平成21年4月に国立国際医療研究センターに非常勤職員として採用となり、一般検査を担当していました。同年6月に当院に採用となり、生理検査を担当していますが、人と接することが得意でない私にとって、最初は患者さんとのように接したら良いのかかわからず悩みましたが、先輩技師の接遇を見て学び、少しずつではありますが慣れてきました。

現在、検査部では各部門でスキルマップ表を作成し、業務の達成度を数ヶ月ごとに評価しています。生理検査部門では、現在行っている呼吸機能検査、心電図、血圧脈波、超音波（腹部、心臓、下肢静脈、関節、頸動脈）、脳波、PSG、検査受付、発注業務、統計業務を大区分として、さらに、これらをいくつかに分けて、月ごとの目標を定めています。スキルマップ表をもとに少しずつ新しい検査を覚え、技術と知識を増やしていけるように日々努力していきたいと思います。

最後になりましたが、皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

NHQ横浜医療センター……………有波香織



新年明けましておめでとうございます。

昨年4月より、横浜医療センターに採用となりました。それ以前に2年間非常勤職員として病理検査に携わっていたものの、初めての当直業務や新しい環境に身を置き、社会人になりたてのような初心の気持ちで過ごすことができました。有難いことに当院でも病理検査を担当し、前施設にいるときから始めた細胞検査士取得への勉強を一番身近な環境で勉強させていただいています。

しかし、昨年9か月間は自分の勉強不足をまさに痛感する毎日でした。施設の違いもありますが、細胞診において今まで身につけてきた知識など無いようなものと知り、一から見直す機会となりました。また、病理検査以外経験が無い私には当直業務のほとんどを一から覚えることになりましたが、検査科の皆さんは優しく丁寧に指導していただきました。本当に諸先輩方のおかげで、無事に新年を迎えることができたといえます。

また、当院は昨年4月から「横浜市南西部地域中核病院」を掲げる新病院として発足し、運営体制を一新させ、業務を軌道に乗せるために慌ただしかった日々からやっと落ち着きをみせた所ですが、今後の更なる飛躍のために微力ながら私も努力を重ね一つの歯車になっていければと思っています。この文を載せさせていただいた関信支部ニュースが手元に届く頃には、試験の結果が出ておりますので、努

力実り免許も手元に届いていることを今は祈るばかりです。

最後に、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますのと同時に、今年も引き続きのご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

NHQさいがた病院……………大島陽子



今年でなんと54歳になります。若い時は想像もできなかったオバチャンの私です。よく働き続けてこられました。ちょっぴり自分を誉めましょう。それからやはり周囲あつての自分であることを再確認して働き続けてこられたことに感謝したいと思います。

最近夕飯終わったとたん睡魔におそわれ目が覚めると夜中の2時3時。そのまま朝になってしまうことも珍しくありません。でも、うつ病の始まりは食欲不振と不眠。食べられて眠れている間は大丈夫と言いつつこのどうしようもない生活を正当化しています。働く主婦は皆こうと言って家族にあきれられています。

目標その1「ていたらくな生活を改善する」ことにします。容姿の衰え、視力の衰え、脳みその衰えは止めようありませんがあきらめずにチャレンジしましょう。自己研鑽を怠らず、チームワークを図り他部門とコミュニケーションをとり、検査科をよりアピールしていきたいと思います。

目標その2「愚痴を言わず明るく前向きに仕事する」ことにします。なにかと大変な時代ですが、健康に注意してストレスをためず肩肘張らずに自然体の自分で仕事を続けていけたら良いと思います。

今年は卯年。飛躍の年です。NHQ、国臨協そして皆様の益々の御繁栄をお祈りいたします。

今年もよろしくお願いいたします。



NH O長野病院 ……………松 枝 岳 志



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

国立病院機構に採用となり、長野病院で勤務してから3年が経過し、現在生理検査業務を担当させていただ

いております。

昨年を振り返ると、公私ともに変化の大きい一年でした。長野病院では秋より、電子カルテシステムと生理検査システムが導入されました。開始にあたり通常業務だけでも忙しい中、部門システムの導入、電子カルテとの接続やメーカーとの幾度とない話し合いをし、また休日を惜しんでのマスタ作成、レポートレイアウトの作成など苦労はありましたが、とても貴重な経験をすることができました。

また、縁あって昨年春に結婚し、人生の大きな転機を迎えました。家庭を持つ人間として社会で果たすべき責任も大きいと実感しています。自分を取り巻く環境が変わる中で、課題としていた「1年に1つは学会発表か認定試験の受験」をどちらも実行には移せませんでしたが、今年は認定心電図検査士取得を目標に励んでいきたいと思います。また、勉強会・研修会などにも積極的に参加し自己のスキルアップを目指したいと思います。

最後に会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。本年もご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

NH O甲府病院 ……………紅 林 里 美



新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部会員の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は平成20年4月より甲府病院に採用となり、本年度で4年目を迎えます。採用当初は検査業務や社会人としての姿勢など技師長を始め検査科の方々に指導して

いただき、日々奮闘しながら業務を行っていました。現在では、生理検査を担当して2年半になりますが、担当当初は業務を覚えるのに必死で特に超音波検査では、技術面、知識面で足りない点が多く、検査時間ばかりかかっていました。昨年は超音波検査にも大分慣れ、先輩技師に指導していただいたおかげで、少しずつですが技術、知識の両面で向上できた年ではないかと思います。

また、人間ドックの乳腺超音波検査を生理検査室で担当することとなり、新たな分野への取り組みで一からの勉強ですが、女性として乳癌等の早期発見に少しでも貢献できるよう努力していきたいです。

今年はついに超音波検査士の受験資格が得られるので挑戦しようと思います。念願の資格を取得し、医療の現場で還元できるように日々努力していきたいです。また、学会や研修会等へ積極的に参加し、昨年以上に成長できるよう

頑張りたいと思います。

最後に関信支部の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げるとともに、新年の挨拶とさせていただきます。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

NH O東京病院 ……………呉 麻 子



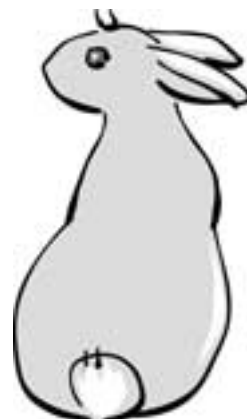
新年明けましておめでとうございます。国臨協関信支部の皆様におかれましては、よき新春を迎えられたことと、謹んでお喜び申し上げます。

私は、昨年4月より東京病院に採用となりました。昨年の3月に臨床検査技師に合格し、学生を卒業しま

したので新社会人として緊張と不安と期待を持って病院へ向かったのを覚えています。主に生理検査の担当ですが、広く検査業務を修得する目的で検体検査業務にも携わっています。この9ヵ月間というものは、業務を行う上で何をしたいのか分らない歯がゆい思いをしてきました。なかなか行動が出来なく、諸先輩方の足手まといとなりご迷惑をかけてしまったことも多々ありましたが、今では少しずつ出来ることが増え達成感を得ることができ、さらに勉強したいという意欲に駆られ充実した毎日を過ごしています。東京病院の一員に加えていただき、技師長、副技師長はじめ諸先輩方のご指導に心より感謝致しております。

今年の目標と致しましては、昨年国臨協関信支部学会で演題発表された諸先輩方に触発され、私も演者として参加することです。また、認定資格にも挑戦したいと思っています。先日超音波検査学会にも入会致しまして数年後の資格取得へ向けて自己改革の一年にしたいと思っています。すべての経験は自分自身の成長へ繋がっていると思います。新人研修のときに学んだ医療人としての接遇の基本を芯に持ち、仕事もひとつひとつ、そのとき自分が持っている力を全力で注ぎたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



地 区 会 だ よ り

支部・神奈川地区会共催 研修会に参加して



NHO神奈川病院

川 隅 基 子

平成22年10月30日（土）NHO横浜医療センターに於いて神奈川地区総会と病理研修会が同時開催されました。当日は、猛烈な台風という悪天候にもかかわらず多数の参加者がありました。

病理研修会講演の前に、会場となった新しい横浜医療センター検査科の見学会が行われました。

私は初めてみる他施設に興味を抱きました。

広々とゆとりのある生理検査部門を見学した時は、患者目線にたった、その検査室の環境づくりに、患者は安心して検査を受けることができるのではと感じました。

学術講演の第1部では横浜医療センター臨床検査部長の新野史先生に「国立病院・療養所病理検査室に勤務して」をテーマに講演していただき、先生が経験された珍しい数々の症例報告や、剖検症例の写真を見ることができ、病理検査に携わっていない私にとって、とても新鮮でした。

第2部では、国立がん研究センター中央病院の佐々木直志先生による「国立医療施設の病理検査室に携わる検査技師として」と題した講演が行われ、転勤の多い状況でいかに病理検査の技術保持をするか、などを講演していただき、資格取得や学会参加に積極的に取り組む大切さを感じることができました。

最後に講演をしていただきました。横浜医療センター臨床検査部長の新野史先生、国立がん研究センター中央病院の佐々木直志先生に感謝するとともに、関信支部役員の皆様に心からお礼を申し上げます。

神奈川地区会定期総会に参加して



NHO相模原病院

福 永 利恵子

平成22年10月30日（土）、4月に新棟がオープンしたNHO横浜医療センターにおいて、第29回神奈川地区定期総会が行われました。当日は季節はずれの台風接近中で暴風雨だったにも関わらず、多数の参加者がありました。

初めに田島支部長、林副支部長より、ご挨拶と関信支部からの連絡事項をお話いただきました。定期総会では、平成22年度経過報告、会計報告、会計監査報告、平成23年度事業方針案、予算案、新役員、総会開催時期の変更に伴う会期の変更などが審議・承認され無事終了しました。続いて、永井臨床検査専門職による業務報告が行われました。

国立病院機構の現状、日本医師会精度管理結果報告、人事交流など、盛り沢山の内容でした。総会終了後は新しい検査科の見学会が行われました。生理検査に携わる者としては、広々とした生理検査室が羨ましく思いました。ストレッチャーなどの対応も容易に出来そうだと感じました。

最後になりましたが、ご講演いただきました永井専門職、支部役員の方、そして開催の準備、施設見学にご協力いただいた横浜医療センターの方々に感謝申し上げます。

平成23年度神奈川地区会役員

会 長	近藤 正（箱根病院）
事務局長	桑村 良隆（久里浜アルコール症センター）
理 事	安保 伸樹（相模原病院）
理 事	山崎 直樹（神奈川病院）
理 事	角谷奈帆子（横浜医療センター）

第30回 国臨協関信支部新潟地区会総会・研修会を終えて

NHOさいがた病院 岩 間 裕 子

平成22年11月6日（土）透き通るような秋空のもと、関信ブロックより永井臨床検査専門職、関信支部より田島関信支部長、渡司副支部長をお迎えして第30回国臨協関信支部新潟地区会総会・研修会をNHOさいがた病院講堂において開催されました。

記念講演にNHOさいがた病院 山田光則臨床研究部長より『悪玉か、善玉か』と題して神経変性疾患は遺伝子配列異常症であるポリグルタミン病（CAG repeat病）であることが既に解明されており、発病年齢により臨床疾患名が異なるという「目からうろこ」の講義をして頂きました。続いて『臨床検査部門の現状と課題』と題して永井専門職より試薬共同購入状況、日本医師会精度管理結果と分析、登録選考試験結果、認定技師取得状況、今後の人事交流や研修予定等さらに『キャリアパス』の自己研鑽の意義や方法そして目標設定の今後の展開方法など「脳は柔らかくなったが発想力硬化」している世代も奮起させられる講義がありました。続いて関信支部ご臨席の下定期総会が開会されました。会の初めに9月26日急逝された前さいが

た病院技師長故横田彰さんのご冥福を参加者全員でお祈りいたしました。懇親会は会場を移し、第30回新潟地区会を祝うように「花火」で迎えられ、参加者23名新潟の秋の味覚そして地酒で親睦を更に深めた。次回担当施設の西新潟病院川畑技師長の挨拶、新潟病院御子柴技師長の手締めにてイルミネーションに彩られた星空の下散会となりました。新潟地区会が益々盛会となり40回50回と歴史を紡いでいくパワーを感じた新潟地区会でした。お忙しい中遠方よりご出席を賜りました永井専門職、田島支部長、渡司副支部長に御礼申し上げます。



群馬地区会定期総会・講演会を終えて

NHO高崎総合医療センター 山 居 伸 以

平成22年10月16日（土）国立病院機構高崎総合医療センター大会議室において、平成22年度国臨協群馬地区会総会及び学術講演会が開催されました。

まず初めに、西群馬病院の松本善信主任技師より、「下肢静脈血管エコーについて」と題し、実際の画像を見ながら、測定するうえでのコツを詳しく教えていただきました。次に沼田病院の上野将臣技師より「心臓カテーテルの介助について」の講演があり、血管内超音波（IVUS）の血管内部のエコー像の発表など、いずれの講演も大変勉強になりました。

次に「連絡・業務報告」と題して永井専門職に講演していただきました。試薬の共同購入の経過や人事交流について、人材育成や年代別技師数、認定試験取得状況、新採用状況等の内容でお話していただきました。毎年専門職からの報告を聞くと、大きな組織の一員であることを再認識し、身の引き締まる思いがします。講演会終了後、群馬地区会総会が行われ、無事に次期役員も決まり終了しました。

総会後は、高崎駅近くの「高崎達磨」にて懇親会を行いました。達磨の形の鍋を囲みながら、笑顔があふれる和やかな雰囲気の良い懇親会でした。

最後になりましたが、ご協力いただきました会員の皆様、お忙しい中で講演いただきました永井専門職、関信支部の田島支部長、峰岸事務局長、関信支部役員の皆様に心より感謝申し上げます。

平成23年度 群馬地区会役員

会 長	竹 下 昌 利	（西群馬病院）
事務局長	大 川 正 人	（高崎総合医療センター）
会 計	出 井 美智子	（高崎総合医療センター）
理 事	鈴 木 忠 利	（楽泉園）
理 事	川 上 喜 久	（西群馬病院）
理 事	大 沢 郁 雄	（沼田病院）
理 事	中 條 幹 夫	（高崎総合医療センター）
会計監査	太 田 雅 司	（高崎総合医療センター）



平成23年度 関信支部役員公募のお知らせ

役員推薦委員長	小 林 和 博
委 員	内 野 厳 治
委 員	原 田 哲 志

平成23年4月の関信支部総会において役員の改選を行います。国臨協関信支部役員推薦規程第2条により役員を公募します。候補者は下記の要領にて委員会に書類を提出して下さい。

記

1. 施設名・氏名・年齢・性別
2. 職務歴
3. 会員歴
4. 国臨協関係役員歴
5. 抱負（簡単に）

締め切り 平成23年3月12日（金）

提出先 〒162-8655

東京都新宿区戸山 1-21-1

国立国際医療研究センター病院

中央検査部 小 林 和 博

以 上

平成22年度退職者を囲む 合同交流会

日 時：平成23年4月23日（土）

14：30～17：00（14時受付開始）

場 所：アルカディア市ヶ谷

同日は、下記の場所において関信支部定期総会および研修会を開催する予定です。

詳細につきましては後日お知らせいたします。

場 所：東京都中小企業振興公社秋葉原庁舎3階

（J R 秋葉原駅徒歩1分）

支部ニュース181号の訂正とお詫び

前号181号の1ページ目のタイトル「第38回国臨協関信支部 学会・総会開催される」は「第38回国臨協関信支部 学会開催される」の誤りでした。

関係各位ならびに会員の皆様へ深くお詫びして訂正させていただきます。

人 / 事 / 異 / 動

【平成22年9月30日付 辞職者】

氏 名	施設名	役職名
渡 辺 出	宇都宮病院	主任技師

【平成22年11月1日付 昇任者】

氏 名	旧施設名	旧役職名	新施設名	新役職名
佐 藤 志津江	栃木病院	臨床検査技師	宇都宮病院	主任技師

覚えよう 身につけよう 検査技術! 輸血検査の基礎と"こつ" No. 1 (凝集の見方)

NHO東京医療センター 深 澤 文 子

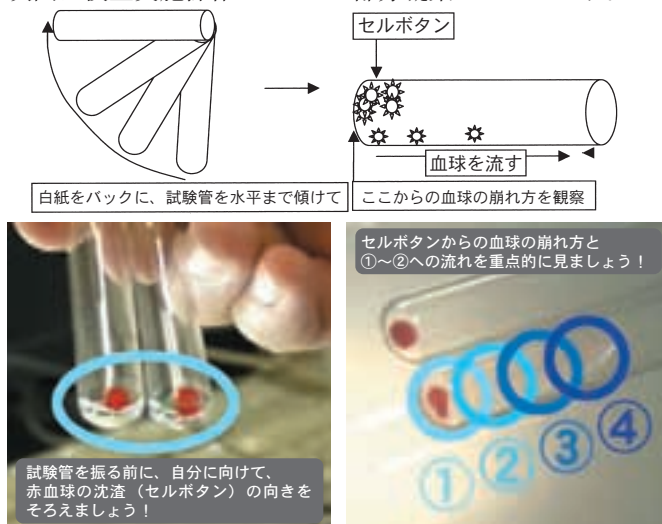
今回、第38回関信支部学会教育セミナー「検査の基礎とこつ」の内容を、何回かに分けて、まとめさせて頂く機会を頂きました。まず、第1回目は凝集の見方です。

血球浮遊液の濃度により、凝集の見え方に差がでるため、血液型ウラ血球の濃度を手本に、適切な血球浮遊液を作ること正しい判定の第一歩です。

- ①白紙か、ビュアーの上で、判定する。(天井の電気にかざして、下からのぞくのは、やめましょう)
- ②試験管は、セルボタン（赤血球沈渣）が目線の下にくるように自分に向けて持つ。持つ本数は2本以上で、自分が同時に観察できる数。(1本ずつの観察は、他との比較ができにくいいためやめましょう)
- ③溶血を観察する。(溶血の観察は、PEG添加抗グロブリン法のように、添加後の遠心判定を行わず洗浄を行なう検査法では、洗浄前にも行なう必要があります)
- ④試験管が水平位置になるまで自分に向かって、ある程度ゆっくり傾けて、セルボタンから崩れ落ちる血球を観察し、凝集を判定する。(傾ける前には絶対に振らない、振動も与えないよう気を付けます)
- ⑤5回ほど繰り返し、血球の流れを観察・判定する。
- ⑥セルボタンが全てほぐれるまで、やさしく振って傾けては観察を続ける。(部分凝集を見逃さないためです)

輸血検査は、経験の少ない人にとっては、不安そのものです。凝集の見方がわからない、弱い凝集を見落とすかもしれない、手順に不安がある、等々…。患者の命に関わると思うとよけい緊張します。そんな不安の解消に、少しでもお役立て頂ければ幸いです。

次回は検査実施操作の"こつ"と部分凝集についてです。



写真は、(社)日本臨床衛生検査技師会発行「新輸血検査の実際」輸血検査CD-ROMより

(独) 国立精神・神経医療研究センター病院開院して

(独)国立精神・神経医療研究センター病院 小 川 勝

国立精神・神経医療研究センター病院始まって以来最大のイベントである新病院への引越と電子カルテ導入が無事終了し、平成22年9月29日より当センター病院は、新病院での診療業務が開始されました。

新病院は地上6階建て(延床面積29889.75㎡)474床(一般200床、精神140床、医療観察法68床、重症心身障害60床、クラスター病床6床)となっています。旧棟では各病棟が別々の建物で、渡り廊下でつながっていましたが、一つの建物に集約され機能的になりました。

臨床検査部は1階に生理検査部門、外来採血室、2階に検体検査部門(生化学・免疫・血液・一般)、微生物検査室、病理検査部門が配置されました。そして、今回新たに輸血管理室を配置し輸血業務の一元管理がスタートしました。



編集 新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

後記 年未年始も臨床検査技師として、病院勤務者として、医療人として、大晦日やお正月返上で、勤務なさった会員の方々に心より「本当にご苦労様でした」と労いたいと思います。

182号は『新年を迎えて…』と題して、会員の皆様に今年の抱負など多岐多様にわたり投稿して頂きました。

さて、皆様も年頭にあたり「今年は、今年も、今年こそは、今年までに…」など個々に・組織的に様々な目標を立てられたのではないのでしょうか。大小に関わらずまず一步を踏みだし、目標に向かって進んでみましょう。いろんなことにチャレンジし、自分の知識や仕事の幅をもっと広げてみませんか。本年も関信支部は会員皆様のチャレンジする力をサポートしてまいります。本年も宜しくお願い致します。

副支部長：渡司博幸